

りんたろー。さん。手紙なんて、彼女にも、親にも、誰にも書いたことがないから、作法とか形式とか、そういうのはよくわからないけど、とにかく思ったままを、あるがままに書きます。

正直に言うと、りんたろー。さんは俺にとって、ワンナイトラブ、一夜だけの相手のつもりだった。M-1に出たくて、それまで面識のなかつたりんたろー。さんに声をかけた。結果は3回戦敗退。はい、さようなら。そうなるはずだった。

でも、りんたろー。さんは、一夜ではなく、一生の相手として俺を見てくれていて、それはもう長い長い、短編小説どころか、長編小説のようなLINEで俺を引きとめてくれたね。

2017年12月22日。りんたろー。さんは、Twitterでこうつぶやいた。

この長いトンネルの、「出口」にできるようバチバチかましてくんでしくよろです。

りんたろー。さんのこのツイート以降、たしかに、俺たちはバチバチかまして、トンネルの出口を抜けたかもしれない。でも、出口は入口にもなるわけで、抜けたと思ったらまた次のトンネルが出てきて、結局、トンネルを抜けることはできないのかな、と最近思い始めてもいる。

でも、不思議と怖くはない。俺の右側にはいつもりんたろー。さんがいて、どれだけ道が暗かろうと、右腕から伝わってくる体温に俺はほっとする。そして、右耳から聴こえてくる「Here we go!」の声で、俺は迷うことなく一歩を踏み出せる。

りんたろー。さん。いつも隣にいてくれてありがとう。これからも2人であることで、笑い喜びは2倍に。そして、悲しみは半分に分け合おう。

最後に。俺を引きとめた時、「俺がお前を日本のスターにさせるから。1回だまされたと思っについてきてくれ」。りんたろー。さん、そう言ったよね。

約束してほしい。スターにはなれなくてもいいんだ。でも、1回と言わず、ずっとこのまま俺をだまし続けてほしい。トンネルの先に光はあるんだ、と。EXITはあるんだ、と。ね？約束だよ。

お後が、Here we go.

兼近より